



このコーナーでは、小学校区単位(地区)でまとまって地域活動に取り組む「地域コミュニティ組織」をご紹介します。



南院内さとづくり協議会

豊かな自然と人のやさしさで 広がる南院内のさとづくり



協議会発足当初、景観10選・美化10選や写真コンテストなどで、地域の魅力を再確認し、これらを参考に19基の石橋の誘導・説明板設置や大飛の滝、恵曾の滝などの観光案内看板などを整備しました。また、子どもたちの健やかな育成と地域への愛着を育む取り組みとして、卒業記念に小学生手書きの環境美化看板を設置したほか、花の景観づくりや景

美化活動と安全強化で
魅力的なさとづくりを

活動の一部をご紹介します

両合棚田で記念撮影!



観ウオーキング、75歳以上の一人暮らし世帯へはがきを出す「お便りおごめん」などを継続し、地域の環境美化・安全確認に努めています。平成30年に協議会設立10年が経過したことに伴い、新規計画を策定し、事務局員2人体制で市事業受託の林道整備や古紙回収、マチュピチュ展望所の売店活用など、積極的な自主財源確保のための取り組みも始めました。



事務局
御堂さん

南院内の散歩
おすすめスポット

宇佐のマチュピチュ展望所でほっとひと息

道の駅いんないから国道387号を玖珠町方面に約10km進むと、展望所の案内看板が見えます。展望所からは南米ペルーの空中都市マチュピチュを彷彿させる西椎屋の景を望むことができます。昨年秋の休日に、野菜などの販売を行う「天空の市」を開催しました。今春も開催を予定していますのでぜひお越しください。



問合せ/まちづくり推進課 コミュニティ係 (☎ 27-8237)

日本の主流である木造建築は壁に漆喰を塗り、水や火に備えました。漆喰とは消石灰を主成分にスサ（植物繊維）、糊材などの有機物を混ぜて練り上げたもので、防水性・耐火性に優れ、古より城郭や神社、民家、土蔵などに用いられました。その漆喰の壁面に左官職人が鍍を使っ
て描いたレリーフ（浮き彫り）のことを「鍍絵」といいます。

鍍絵は、全国に2000から3000点ほどあるといわれていますが、大分県がその半分以上を占め、中でも安心院町には100点以上が存在し、日本一の密集度を誇っています。通称鍍絵通りと呼ばれている折敷田・下毛地区を歩けば、七福神、竜虎、唐獅子などが競います。顔料を練りこんで造られた鍍絵は100年以上たった今でもその輝きを失っていません。



重松家「雲龍」

余談ですが、虎と富士山の鍍絵がある重松邸は「御許山騷動」の中心である佐田秀らが討幕謀議を行った場所でもあり、御許山騷動時に掲げた錦の御旗が所蔵されています。

鍍絵の図柄には意味があり、恵比寿・大黒は商売繁盛や五穀豊穰、雲龍は火事除け、ウサギは子孫繁栄、虎は疫病除けなどを表しています。安心院町は、明治・大正にかけて養蚕で栄え、多くの建造物が建てられました。棟梁は建物完成のあかつきに、施主のさらなる繁盛や招福の願いを込めて鍍絵をプレゼントしたのです。

平和ミュージアム（仮称）開館に向けて
kioku wo tsunagu

記憶をつなぐ

このコーナーでは「宇佐市平和ミュージアム（仮称）資料館」の開館に向け、これまで収集した資料や今に残る戦争遺構にまつわる「記憶」を紹介していきます。

33 気泡六分儀二型

衛星を使ったGPSなどで自分の位置情報を得られなかった時代、航空機は星や太陽などの高度を測って位置を特定する天測航法を用いました。これはその際に天体の高度を測定した用具です。

測定後は専用用具により手計算で位置を求めました。海軍機は目印のない海上で長距離を飛行したので、位置を把握する技術は重要でした。



■ 戦争関連資料を収集しています。提供していただける方は社会教育課 文化財係（☎ 27-8199）にご連絡ください。資料は平和の尊さを学ぶために活用いたします。

問合せ 社会教育課 平和ミュージアム建設準備室（☎ 27-8200）